



オリーブで
もっと、
わくわく。

OLIVE NEWS

オリーブだより えたじま

瀬戸内いとなみ舎のオリーブオイルがOLIVE JAPAN® 2023で銀賞を受賞

5月に開かれた「OLIVE JAPAN® 2023 国際オリーブオイルコンテスト」にて、瀬戸内いとなみ舎合同会社（地域おこし協力隊を卒業した峰尾さんの会社）のオリーブオイルが銀賞を受賞しました。受賞したのは2022年秋に製造した「江田島ブレンド ストロング」「江田島ブレンド ミディアム」「能美島ブレンド マイルド」の3種。

12回目の開催となる「OLIVE JAPAN® 2023 国際オリーブオイルコンテスト」。世界中から出品された710のオリーブオイルのなかから、国内の他32品とともに銀賞に選ばれました。瀬戸内いとなみ舎は昨年に続き2年連続の受賞。おめでとうございます。



峰尾 亮平さん
(瀬戸内いとなみ舎)

2022年の秋は、タイプの異なる3種類のオリーブオイルを製造しました。3種類すべてで銀賞を獲得できたことは、「この製造方法でやれば良い品質を確保できる」という太鼓判をいただいたような結果で、とても大きな自信になりました。栽培から加工、そして販売と、それぞれの場面でひと回りふた回り大きくなれるよう、引き続き頑張ります。

江能分級の教室から

～呉特別支援学校江能分級のオリーブの取り組みを紹介～

今回は絶対成功させるぞ！
煮込んでいる間は
お茶のような香りがします



今回はうまく染まらず
残念。めげずにまた次
回再挑戦です！



オリーブの葉で染物に挑戦

「江能分級では毎年、高等部第2学年の『総合的な探究の時間』において『オリーブ栽培で地域おこし』という年間テーマで学習に取り組んでいます。今年度の2年生は、オリーブの葉で染物に挑戦することにしました。現在は思ったようにうまく染まらず、悔しい思いをしていますが、今後、使用する薬品や葉の量、染める時間を調整する等、様々な工夫をして、より良いものができるよう試行錯誤していきます」

栽培情報-夏のオリーブ栽培



水やり 実がしわしわになってきたら注意

水分が少ないとオリーブの実がしわしわに萎んでしまいます。そのまま放っておくと枯れたり落果が多くなってしまいます。（園地にもよりますが）1週間ほど雨が降らない場合には、たっぷりと水やりをしましょう。上の写真のような状態でも、水やりをすることで元気な実に戻ります。

夏肥 夏肥をやりましょう

6月下旬に夏肥をやっていない方は施肥を実施してください。推奨は「BB濃縮348」（チッソ13% / リンサン4% / カリ8%）です。
※従来推奨していた「BB濃縮300」が製造されていないため「348」が推奨となります。
※肥料購入に伴う補助制度があります。
詳しくは振興室までお問合せください（0823-43-1643）



オリーブの搾りかすを活用「オリーブポーク極」

オリーブの搾りかすを有効活用した商品が誕生しました。

オリーブオイル製造時には大量の搾りかす（「ポマス」と呼ばれます）が発生します。江田島オリーブファクトリー（山本倶楽部株式会社）と広島県立西条農業学校とが連携し、ポマスの飼料化に成功。

飼料を食べた豚の肉が出荷時の最高ランク「極上」に格付けされました。

2023年6月、西条農業学校の生徒がオリーブファクトリーを訪れ、レストランで販売スタートとなったロースハムのPRをしました。「もったいない」を活かしたオリーブの新商品。中面ページで詳しくご紹介します。



Facebookページでも
オリーブだよりの情報を
発信しています♪